

昭和51年度に発生した森林害虫

やまぐち ひろあき こいずみ ちから
 山口 博昭・小泉 力
 (1977. 3. 10受理)

1. 昭和51年度の害虫発生状況

表-1 昭和51年度森林害虫発生概要

害虫名	樹種	発生地(面積ha)	備考
トドマツノハダニ	トドマツ	浜頓別署(1,226 m ²)	苗畑。その他各地の苗畑
イヌガヤワタカイガラムシ	イチイ	札幌市	庭園樹
ヒメカサアブラ	トドマツ	余市署	昭41年植造林地、単木的に激害。 その他各地の苗畑
カラマツカサアブラ	カラマツ	滝上署(10) 南富良野町(7)	ともに3年生幼齢造林地
カサアブラの1種	クロマツ、アカマツ	森町(48)	
エゾマツカサアブラ	エゾマツ		報告はないが、各地の幼齢造林地
オオアブラムシ類	トドマツ エゾマツ アカエゾマツ	札幌局 10,000(トド, エゾ, アカエゾ) 函館局 251(トド) 旭川局 { 513(トド) 149(エゾ, アカエゾ) 帯広局 { 279(トド, エゾ) 1,426(エゾ) 北見局 { 21(トド) 375(アカエゾ) 道有林 { 3,231(トド) 2,107(アカエゾ) 1,122(トド) 民有林 { 57(エゾ) 45(アカエゾ) 合計 (19,576)	防除面積 札幌局 5,543ha 函館局 237 旭川局 71 帯広局 1,705 北見局 0 道有林 5,338 民有林 996 合計 13,890
カラマツオオアブラ	カラマツ	苫小牧林務署(17)	防除
マツオオアブラ類	マツ類		道央、道南の造林地で散見
トドマツノタマバエ	トドマツ	白糠署(0.5)	昭30年植造林地
スギタマバエ	スギ		道南スギ造林地に散見
マツバナタマバエ	クロマツ	桧山署	砂坂海岸林に侵入初期とみられる被害発見
クリタマバチ	クリ	乙部町(3)	その他道南各地でひき続き発生
シラカバノクロボシハムグリハバチ	シラカンバ	帯広市(10)	4年生の造林地。種名は未確認
エゾマツハバチ	アカエゾマツ	浦幌林務署(72)、浦幌町	10年生前後の幼齢林。従来ハバチの1種とされていたもの
カラマツキハラハバチ	カラマツ	大樹署(60)	昭和47年以来広尾、大樹のカラマツ林でマツノミドリハバチの大発生とされてきたものは、本種の被害と判明

害虫名	樹 樹	発 生 地 (面積ha)	備 考
コンボウハバチの1種	シラカンバ	江別市	公園樹に大発生
マツマアカシムシ	クロマツ		報告はないが、各地の海岸林でひき続き発生
マツノシンマダラメイガ	クロマツ, 他	桧山署(1)	樹木展示林
コスジオビハマキ, その他ハマキガ類	トドマツ		前年度再び密度増大の徴候を認むるも、本年度は低密度で経過
トウビハマキ	アカエゾマツ	標津署(63)	幼齡林、一部昭12~13年植栽の壮齡林
カラマツイトヒキハマキ	カラマツ	名寄林務署(100), 風連町(1)	
ハマキガの1種	ヨーロッパカラマツ	神楽署(0.2)	
ハマキガ類	コバノヤマハンノキ		ナミスジフユナミシヤク(別掲)と混在して大発生
ツガカレハ	トドマツ アカエゾマツ ヨーロッパトウビ ストロブマツ ヨーロッパアカマツ	津別署(8) 北見林務署(241) 津別町(440), 網走市(0.3), 北見市(4) 鹿部町(0.2), 札幌市	トドマツが主で、津別町の大部分は王子緑化社有林。札幌市は庭園樹。北見林務署(発生地は津別), 120 ha薬剤防除, 191 haビニールテープ巻法(登上阻止法)による防除。津別町43ha薬剤防除
オビカレハ マイマイガ	ヤナギ類, 他広葉樹 カラマツ シラカンバ	札幌市, 江別市 鶴川署(8) 札幌市(10), 岩見沢市(3) 日高町(2), 平取町(6) 富良野市(11), 滝ノ上町(7) 北見市(4), 津別町(450) 美幌町(356), 端野町(30) 湧別町(2), 女満別町(123) 清里町(76) 東藻琴町(1,720) 計 (2,808)	前年度より減少のもよう 大部分カラマツ林。女満別88ha, 平取6ha, 札幌10ha, 計104ha防除。その他道央, 道東の各地で密度増加, 来年度さらに拡大のおそれあり
カシワマイマイ ドクガ	ナラ, カシワ他 広葉樹, 草本類	日高町	前年度にひき続き, 札幌から室蘭にかけて散点的に発生したもよう
ヤナギドクガ キアシドクガ	ドロノキ, ヤナギ類 ミズキ	大樹署(50), 壮瞥町 札幌署, 室蘭署	空知, 石狩, 胆振地方の全域で, 全葉食害される大発生
リンゴスガ	エゾノコリンゴ	江別市, 津別町	全葉失葉の被害散見
オオチャバネフユエダシヤク エダシヤクの1種	トドマツ カラマツ	中標津署(20) 名寄, 美深, 雄武(33), 各林務署 清里町(15) 網走市(4)	高密度の発生
ナミスジフユナミシヤク	コバノヤマハンノキ	厚賀署(8), 白老署(1) 苫小牧署, 定山溪署, 札幌署, 倶知安署, 黒松内町(319), 蘭越町(1), 美唄市(1)	いずれも3~4種のハマキガ類が混在して大発生。その他函館林務署管内でも全葉失葉の被害が観察されているが, 加害種は不明
セグロシヤチホコ	ドロノキ, ポプラ	滝川(5), 苫小牧(2), 両林務署, 苫小牧市(5), 白老町(4), 札幌市, 栗山町	
エゾシロチョウ キマダラコウモリ	サクラ スギ他	函館市, 美唄市, 砂川市, 北見市	道南地方で散見

害虫名	樹種	発生地(面積ha)	備考
コスカシバガ	サクラ		報告はないが、公園樹などでひき続き発生
ヒメコガネ	トドマツ		苗畑での被害、本年度は報告なし
ナガチャコガネ	イチイ	札幌市	床替苗、2造園業者で激害
オオスジコガネ、スジコガネ	アカエゾマツ、カラマツ、アカマツ、ヨーロッパアカマツ、ストロブマツ	恵庭署(2)、東瀬棚署(210)、森署(90)、苫小牧、倶知安林務署、羽幌町(6)、湧別町(1)、美深町(1)、遠別町(24)、天塩町(30)、富良野市(1)、黒松内町(4)	東瀬棚署トドマツ3ha防除
ハンノキハムシ	コバノヤマハンノキ、ヤマハンノキ	白老署(1)、苫小牧署、森町(71)	白老はナミスジフユナミシャクと共同加害、森は42ha防除
ドロノキハムシ	ドロノキ	清水署(17)	
トドマツキクイ	トドマツ	清水署(9)、大樹署(60)、標津署(53)、神楽署(1)	神楽は昭14年植栽人工林、その他は天然林。清水は土場材に薬剤散布
カラマツコキクイ	トドマツ、カラマツ	浦河署(3)、深川署(230)、阿寒署(70)、雄武(1)、滝川(5)林務署	深川カラマツ10ha以外はすべてトドマツ幼齡人工林。深川では合計約72,400本枯死
ヤツバギクイ	エゾマツ、アカエゾマツ	白糠署(223)、留辺蘂署(8) 浜頓別署(5,451) 旭川林務署(300)	浜頓別は昭47年12月の雪害後、49~51年間に発生したもので、被害本数約16,600本、材積24,000m ³ 。白糠は土場材に薬剤散布
カラマツヤツバギクイ	カラマツ	紋別署(4)、清里署(4)、神楽署(10)、北見市(13)、紋別町(4)、津別町(3)、美幌町(1)	いずれも昭30~40年前後植栽人工林、被害本数は紋別署147、清里167、神楽15、北見5,100、紋別700、浸別1,360、美幌1110。被害木は伐倒、搬出処理
ヤチダモノクロキクイ	ヤチダモ	下川町(5)	被害本数175本、190m ³
ヨツボシヒゲナガカミキリ	エゾマツ	白糠署(223)	ヤツバギクイと共同加害

2. 主な害虫の発生動向

北海道では、最近森林害虫の多発化の傾向が一層強まり、特に人工林における各種害虫の大発生、あるいは発生の恒常化が目立ってきている。これらの現象がいずれも人工造林地の増大と密接に関連があるとみられるだけに、森林の造成法やその取扱い方の改善を含めて、虫害からみた施業の再検討が必要のように思われる。昭和51年度に発生した主要害虫の発生動向を要約してみると、次のとおりである。

幼齡造林地では、トドマツに対するトドマツオオアブラの被害に加えて、アカエゾマツを加害するエゾマツオオアブラの発生が恒常化し、防除面積も増えつつある。トドマツではこのほか、前年

秋および当年春の新植造林地で、カラマツコキクイの加害による枯死木がかなり広範囲に発生した。これは昭和51年春の乾燥害が誘引となったものであるが、現地調査の結果では、本種の寄生をうけないものは枯死していないことなどからみて、ただちに乾燥害として処理されてしまった新植地でも同様の被害があったのではないかとと思われる。

成林した造林地では、各種食葉性害虫の大発生が目立った。このうちツガカレハは、昭和48年頃から道央~道東地方にかけて、広く各地で散点的に密度の異常増加が観察され、どこかで大規模な発生をみるのではないかと警戒されていた。今回の津別地区の道有林(トドマツ人工壮齡林)を中心にしたきわめて高密度の大発生は、幸い事前に

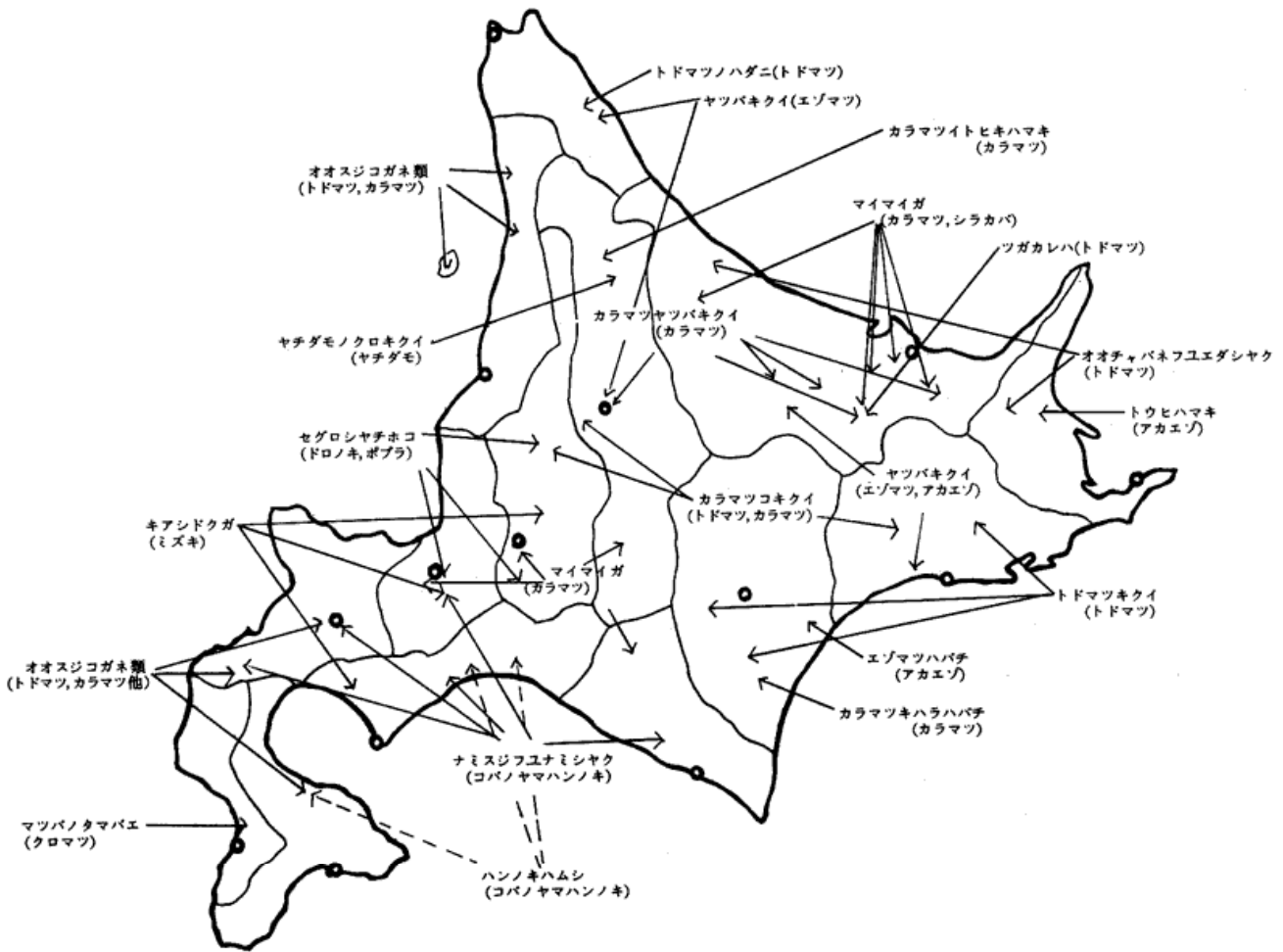


図-1 主な森林害虫の発生地（全道的に被害のあったオオアブラムシ類を除く）

察知されたため、適確な防除により大きな被害をみることなく制御することができた（その発生、防除の経緯は、広野・古本・清水、北方林業28(12)、1976参照）。ただし大発生の周辺地域で、新たに密度の増大が観察されている。

マイマイガも、昭和47年富良野、美瑛地方のカラマツ林に局部的な大発生をみてから、その後次第に地域が拡大され、51年には北見から斜里を結ぶ線の周辺地域一帯と札幌その他で、大面積にわたって発生、なお拡大の傾向がみられている。その他キアシドクガ、ヤナギドクガ、ドクガ、オビカレハなど、広葉樹を加害するいわゆるケムシ類も、昭和49年以来道央地方一帯で散点的に大発生が続いているが、キアシドクガを除くと前年度より減少したもようである。

オオスジコガネ、スジコガネは、昭和46年以降発生が下火になっていたが、本年度は道南、道央、道北地方とかなり広い地域で大発生している。またセグロシヤチホコは、ポプラ類の害虫としてごくふつうの種類で、これまでも時折、単木的には全葉丸坊主になるような被害を生じている。今回は道央地方の各地で大発生がみられた。

最近になって大きな被害の発生をみるようになった害虫の1つとして、オオチャバネフユエダシヤクがある。昭和49年に、中標津のカラマツ列状間伐跡に植栽されたトドマツ幼齢造林地で大被害をうけて以来、次第に発生地が増えてきている。本種はトドマツのほかカラマツも加害するが、清里、網走地区のカラマツ林で大発生したエダシヤクの1種は、本種とは明らかに別種の害虫である

という。同じくエゾマツハバチは、昭和45年に池田のアカエゾマツ造林地で初めてその発生が観察され、その後46、47年に阿寒、50、51年に浦幌と比較的接近した地で発生が続いている。また初めはマツノミドリハバチと混同されていたカラマツキハラハバチも、本道新記録の害虫で、昭和47年に広尾地方で大発生が始まり、50年には被害面積は約2,500haにも達した。本年度はかなり減少し、発生は終熄に向いつつあるとみられる。食葉性害虫ではないが、マツバノタマバエも昭和46年に道南の七飯、亀田で初めて被害が発見され、本州から本道への侵入が確認された害虫である。江差の砂坂海岸林で新たに侵入初期とみられる被害が発見され、今後の推移が注目される。

このほか、道央、道南各地のコバノヤマハンノキの造林地が、ナミスジフユナミシヤク、ハマキガ類、ハンノキハムシの大発生で、いずれも全林丸坊主の被害をうけている。ハンノキハムシは、昭和41年頃から木古内地方で大発生が始まって以来、次第に発生地が北東へと広がり、現在苫小牧、白老附近にまで達している。同一地で何年にもわたって連年継続的に大発生する傾向がみられ、枯死木も生じている。

エゾマツ、トドマツ天然林では、いぜんとしてキクイムシ類などの穿孔虫の被害が大きい。なおカラマツ林の除間伐にともなうカラマツヤツバキクイの被害も、やや目立ってきている。

(林試北支場)

北方林業叢書〔在庫〕

送料 実費

第 11 集 内田・松井共著	トドマツ造林 前編	100円	第 45 集 樋口輔三郎 著	野兎の生態と防除	200円
第 12 集 亀井・井上共著	トドマツ保護編	200	第 46 集 中野実共著	造林樹種の特 性 前編	300
第 20 集 武藤憲由 著	トドマツ育苗編	200	第 47 集	カンバ類の更 新法	300
第 25 集 小島幸治 著	北海道の林業機械化	200	第 48 集	北方林業会賞講演集	300
第 30 集 太田重良 著	治山工法・基礎編	200	第 49 集	造林樹種の特 性 後編	400
第 36 集 広谷・柴田・柳沢 江口・小野共著	北海道の育苗ハンド ブック 前編	300	第 50 集	カンバ類の経 営利用編	400
第 37 集 伊藤・鎌田・豊岡 山口・横田・広谷 柴田・坂・新村 岡崎共著	北海道の育苗ハンド ブック 後編	300	第 51 集	間伐の実際	400
第 41 集 半沢道郎共著	カラマツ材の性質と 利用	400	第 52 集	北海道における 林木の寒害	550
第 43 集 柳沢・成田・小林 新田・宮島共著	造林樹種の特 性 アカエゾマツ編	300	第 53 集	北海道における 森林施業	550
第 44 集 脇元祐嗣 著	北海道の天然林施業 後編	300	第 54 集 山本・武居・宮岡 半田・延堂 共著	トドマツ密度管理図	500
			第 55 集 東三郎 著	北海道における 広葉樹林の取扱い	1,000
			第 56 集 横田・坂上・山口 魚住・樋口 共著	環境林をつくる	1,000
				北海道の森林保護	1,000

お申し込みは 社団法人 北方林業会へ

- 職場の共同購入は北方林業会支部幹事を必ず経由して下さい。
- 個人のお申し込みは前金で小樽13712へお払い込み下さい。